

支那事変と我が海軍

梅崎卯之助著

733
316

733-316



1200501590289

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

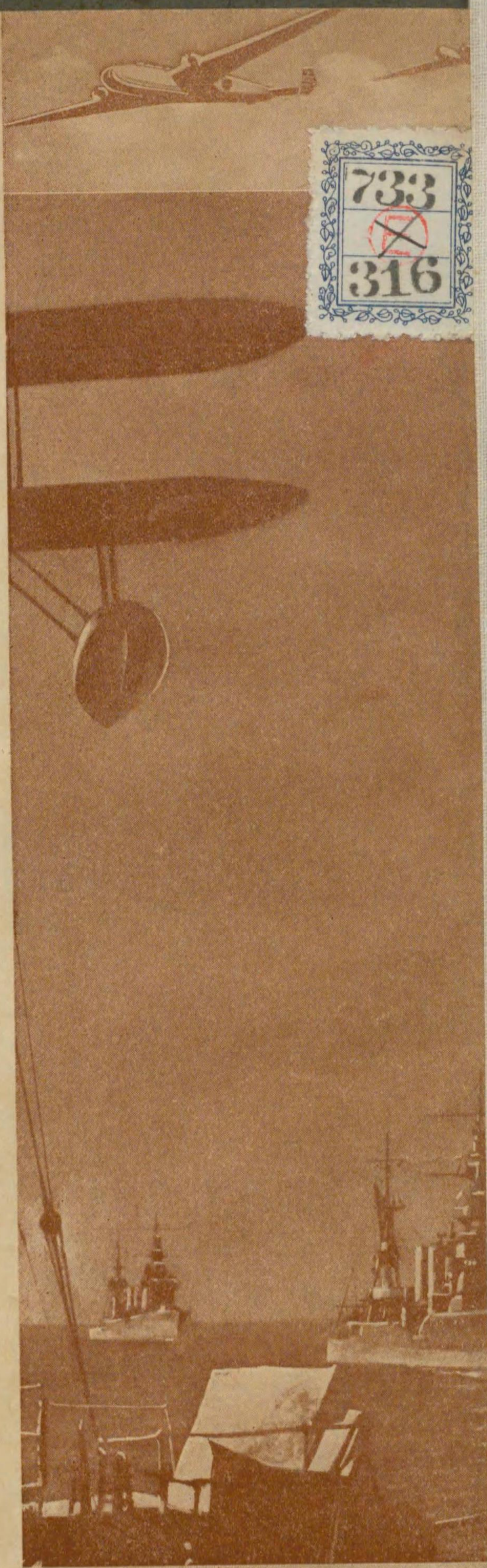


© Kodak, 2007 TM: Kodak

支那事変と我が海軍

海軍中佐 梅崎卯之助

盟聯央中員動總神精民國





支那事變と我が海軍

梅崎卯之助 著

國民精神總動員中央聯盟



文部省 寄贈本

支那事變と我が海軍 目次

一、彼は全く計畫的……………	一頁
二、我が海軍の航空部隊……………	三
三、我が空襲部隊の活躍……………	五
四、精神力と猛訓練……………	七
五、空中肉弾爆撃……………	一〇
六、南京空爆の印象……………	一二
七、暗夜の空襲……………	一四
八、整備員の勞苦……………	一六
九、平時封鎖と各種制限……………	一八
一〇、結 び……………	二〇

— 目次了 —

733
316

支那事變と我が海軍

海軍中佐 梅崎卯之助

一 彼は全く計畫的

私は今度の事變に我が海軍の探つて居ります行動の概略を申し上げまして、皆様のこの國民精神總動員運動の御參考に供したいと思ひます。

我が海軍でこの度やつて居ります行動は、大體三つに分けて私どもは考へて居ります。その一つは上海を中心と致しました作戦であります。つまり附近中央軍の撃攘であります。もう一つは上海附近の戦闘に協同しますのみならず支那各地に對しまして徹底的の打撃を與へるために行つて居ります我が航空隊の行動でございます。それから第三に於きましては、支那沿岸の二千八百五十哩に亘る支那船舶の交通遮斷、即ち平時封鎖をやつて居ります。この三つに考へて居りますが、大體上海方面の戦況は新聞その他で御存じと思ひますので、詳しいことを省きまして、幸ひ海軍の航空部隊の根據地にちよつと行つて居りました關係から、航空部隊の行動に就いて特に詳しいことを申し上げたいと思ひます。

尚ほ上海の陸戦隊の戦闘と、それから航空隊その他に於きましてやつて居ります點に就いて、いろいろ外國で誤解をして居りますし、同時に支那の方でも盛んにデマを飛ばして居りますので、一言だけ陸上戦闘に就いて申述べたいと思ひますのは、御承知とも思ひますが、上海の今度の支那側の行動は全く計畫的でありまして、八月十四日に

突然支那の方では、支那の優秀な御自慢の飛行機を使ひまして、爆弾を諸方に落とし、それからその日の朝は突然陸戦隊に向ひまして、のみならず、日本人の居留区域に向つてドン／＼大砲の弾を打ち込んだのであります。これはその一兩日以前に、支那側から日本人の居ります区域方面の支那人に對して、退去避難するやうに通知を出して居ります。同時に外國人にも通知を出して居ります。さうしてどん／＼皆んな避難させました。そのあとに残つて居ります陸戦隊と日本人の一般居留民に向つて、盛んに弾を打ち込む。勿論その當時の陸戦隊の兵力と支那側の兵力と比較致しますと、大體支那側は十六、七倍にも當るので、到底日本の方から進んで戦争を仕掛けることはあり得ないことである。さういつた非常な優勢な兵力を集めて、さうして寡兵の陸戦隊を一舉に殲滅する。同時に上海の日本人居住区域を灰燼にしてやらうといふ計畫を以て、猛烈なる攻撃を行つたのであります。それにも拘らずあとで日本の方の飛行機が、南京あたりで彼地の一般住民を殺したとかいふやうなデマを飛ばして居りますが、洵に私どもは支那の計畫を考へますと、實に何とも言へない憤慨に堪へないのであります。さういつたこの上海の空氣の中に、十四日はまさに暮なんとしたのであります。當時我が海軍の航空部隊の各將校連中は非常に憤慨しまして、何とかして非常な荒天であるけれどもこれを突破して、支那の空爆に相對抗しなければ不可ぬといふ風な考へを有つて居りましたのですが、何しろ當日は上海の二百裡位、東の方に非常に執拗な低氣壓がありまして、非常に進行が遅いので、十二日あたりからすつと北上はして居りますが、なかなか動かない。随つて斯の如き荒天に若し内地方面から参りますいはゆる渡洋空襲部隊が、途中で故障なんか起つたのでは、甚だ第一回の戦闘で日本の士氣にも關します。同時に支那の士氣を非常に揚げるといふことになりまして、艦隊司令長官に於ては出撃命令を與へなかつたのであります。

二 我が海軍の航空部隊

この日本の海軍の航空部隊に就いて説明致しますと、私どもはこれをまた三つに考へて居ります。一つはいはゆる渡洋空襲部隊、つまり海洋を渡りまして支那の内地の爆撃をやる、さうしてまた海洋を渡つて歸る。これは海軍の術語ではありませぬが、渡洋空襲部隊と言ふて居ります。この海洋を渡る航空部隊といふのは、非常に遠距離に飛びます關係から大きな飛行機であります。いはゆる重爆撃機と申しまして發動機も二つあります。搭乗員も十名近く乗つて居ります。非常に大きい。随つて滑走する距離も八百メートル乃至千メートルくらゐ要します。軍艦の航空母艦のデッキからの發着はできないのであります。随つてそんな大きな飛行機を飛ばす飛行場といふものを、いきなり支那の敵地にそれを求める譯には参りませぬので、豫め此方の方から行くのであります。それからもう一つは、これは艦隊の航空戦隊でありまして、いはゆる航空母艦から出たり降りたりするのであります。随つて母艦の甲板は二百メートル乃至二百五十メートルくらゐしかありませんので、これに使ひます飛行機は餘り大きいのは使へない。いはゆる輕爆撃機といふ種類のものであります。これも前と同じやうに滑走致しますので、車輪の附いた陸上飛行場で使ふのと同じものであります。この飛行機は當時既に準備されまして、揚子江の入口の附近を根據地にして待機の状態に居つたのであります。只今申しましたやうに非常に時化てゐる、母艦も動揺してゐるといふので、これを發進が非常に困難でありますから、艦隊司令長官はこれに對して攻撃命令を出して居りませぬ。ところがもう一つの第三番に申します種類といふのは、各軍艦が搭載して居ります艦載飛行機。これは軍艦の滑走甲板でなく、カタバルトといふ機械から射ち出して、さうして飛び出して、あとで歸つて來る時にはデッキに歸れないから水上

に降りる。水上に降りましたのを軍艦からデリツクで艦上に吊り上げて中に納める。さういふ關係から水上飛行機を使ひます。随つて新聞などで下駄履きと俗に申しますが、フロートの大きいのを有つて居ります。この飛行機はフロートを抱へて居りますので宙返りとかいふやうなスマートな運動ができませんので、大體の任務が軍艦の上から飛び出して偵察をやる、或は彈著の觀測をやるといふやうなことで、スピードの方は要求されて居りませぬが長く空中に居つていろ／＼な觀測、偵察をやるやうに出来てゐる。當時艦隊は揚子江の外側に居つたのが大部分でありましたがこれに搭載してあつたこの種の飛行機も、これも天候の關係から使へなかつたのであります。たゞこの時に吳淞沖に居りました軍艦と、それから領事館の横に居りました第三艦隊の旗艦の出雲、これが各々一臺づゝ有つて居りました。この水上飛行機は目の前で敵の飛行機が盛んに活潑にドン／＼爆彈を落して居りましたので、非常に憤慨致しまして、この鈍重な飛行機を以て敢然と上空に飛び上つて、敵の優秀なマルチン型の重爆撃機と、ノースロップ型の爆撃機を一臺宛射落した。これは未だ曾つて例の無い、世界中戦史上珍しいことをやつたのであります。さういつたやうなことで實に十四日は私どもも東京に居りましたが、何とも言へない切齒扼腕をしたものであります。

ところがその時に上海あたりの人はどういふ風に考へて居つたかといふと、海軍といふものは何をしてゐるのか、海軍は口を利けば上海は現地保護をするといふことを度々約束してゐる。然るに現地保護どころか、敵の飛行機が爆彈をどん／＼頭の上に落すのに、海軍は何にもやらない、海軍なんか何にもならぬ。海軍大臣は辭職しろといふやうな投書まで來た。それは勿論出先の人が憤慨するのも無理もないと思ひますが、事情は只今申しますやうに、實に已むを得なかつたのであります。

三 我空襲部隊の活躍

ところが十四日の午後になりますと、天氣も少し好くなりました。南の方は少し好くなつたといふので、南の方の渡洋空襲部隊に發進命令が出て居ります。大體その日は杭州、廣徳、この二つの飛行場は非常に立派な飛行場でありまして、支那の方では其處に優秀な飛行機を澤山集めてゐるといふ情報がありましたので、十四日の午後二時發進命令が出まして、渡洋空襲隊はその兩飛行場を空爆するために出發したのであります、そこで私どもは五時か六時頃には何とか先方から情報が來るだらうと思つて待つて居りますと、果して六時頃に杭州の飛行場の無線電信が、盛んに火花を散らしてパチパチやつてゐる、然もそれがSOSといふ悲鳴を擧げてゐる。これは我が航空部隊が行つたんだなといふので、初めて胸を撫でおろしたのであります。その時は杭州と廣徳を非常に勇敢に爆撃して居りますが、引續きまして翌十五日からは相當ひどい荒天を冒しまして、渡洋空襲部隊も、艦隊の航空戦隊も、各艦の有つて居ります水上飛行機も、擧つて上海方面或はその周囲の爆撃をどん／＼始めたのであります。以來殆んど連日連夜休むことなしに、非常な勢を以て上海の陸上戦闘の陣地に對する爆撃は勿論、その周囲のありとあらゆる飛行場を爆撃したのであります。今日に至りますまで一日として休み無しに空爆を續けてゐるのであります。毎日々々この成績はどん／＼分つて參りますが、敵に與へた損害はどん／＼殖えますので、十月九日締切りで以て、敵の飛行機を空中で撃墜しましたのが百八十一臺、それから飛行場にあります地上のものを上から爆破したものが百四十三臺。これはみな不確實なものが入つて居りませぬ、確かなものだけ入れて合計三百二十四臺であります。格納庫を爆破しましたのが七十五棟。この格納庫の中には恐らく多少飛行機が這入つてゐたであらうと思ひますが、これは數の中には入つて居

りませぬ。殆んど支那の有効に使用せる飛行機を處分した恰好になつて居りますが、私の方で帳面に載つて居りまする支那の飛行機は、ざつと九百臺といふ風に推定して居ります。その中の使へさうなのは、優秀なものは四百臺足らず三百九十臺くらゐと考へて居りましたが、その中三百二十臺ばかりは處分して居りますので、残るのはもう百臺足らずといふ風に考へて居ります。

尙ほこの外に支那の海軍に對して、飛行機で相當な打撃を與へました。支那の海軍は小さな三十噸ばかりの砲艦などまで入れますと、百艘ちよつと超して居ります。然し乍らその中で海上に出て軍艦らしい働きの出来るものは、ざつと二十五艘くらゐしかなく、その二十五艘の中の十八艘はもう處分済みであります。あとは殆んど大したものも残つて居りませぬ。

さういふものゝ外、凡ゆる兵器工廠とか、それから軍事に關係致しまする官衙、鐵橋、飛行場といふやうなものは殆んど處分済みになつて居ります。特に上海に參りまする浙贛鐵道、それから粵漢鐵道の鐵橋といふ鐵橋は大體處分致しました。現在のところ鐵道は殆んど通じてゐないやうであります。主に荷物の運搬はトラックでやつてゐるやうであります。然し乍らそのトラックの通る橋もだん／＼に手を伸ばして片付けて居ります。斯ういつた鐵橋の破壊を致しますと、一週間くらゐしますと假修理が出来るといふ見込みで、また一週間後には繰返して爆撃するのであります。今まで落しました爆撃は私の推定では、大體二千五百噸ばかりの見込みであります。一噸の爆撃がありますと、東京驛を木葉微塵にすると言ひますから、相當澤山の爆弾を落して居ります。歐洲戦争でドイツがイギリスの空襲を度々やつて居りますが、四年間に百十回くらゐしかないのであります。その場合に使ひました爆弾のざつと五、六倍に當つて居ります。

斯ういつた間にも日本の方でも相當の損害を受けて居りますが、今までは我が海軍航空機の損害は三十九臺であります。氣の毒な犠牲者も相當多數出て居ります。然し敵の損害に較べますと、殆んど十分の一しかないのであります。

四 精神力と猛訓練

毎日々々新聞なんかで非常に賑つて居りますが、海軍の航空隊で私ども初めて打突かるやうな、珍しい戦のやつ振りがありますので、この機會に國民精神の作興といふ意味に於て、一、三の實例を御紹介申し上げたいと思ひます。實は私は新聞の發表の方に關係致して居りまして、最初に下駄履きの飛行機の體當りといふことを新聞に書きました。飛行機で下駄を履いてゐるかといふやうな質問を受けたこともありましたが、實は水上飛行機は大きなフロート振ら下げて居ります。つまり下駄を履いてゐる。この鈍重な飛行機が非常に活躍をしてゐる。この模様を書いた心算でございます。この下駄履き飛行機の體當りといふのは、實は八月二十何日かでございますか、先程申したやうに、非常に鈍重な水上飛行機が吳淞と上海の間の空中を警戒して飛んで居つた譯でございます。その時に敵の最も優秀なカーチスホークの三型の戦闘機二臺に尾行られて居ります。御承知かも知れませんが戦闘機といふのは非常にスマートで、宙返りなんかもやりますし、速力も非常に早い、さうして主に飛行機の前の方のプロペラーの中から機關銃を射ちます。それで相手の飛行機を射ち落すその機關銃はみな焼夷弾でありまして、命中すれば火が點く、でありますから自分の向いてゐる方しか射てないのであります。餘り旋回のできる機關銃は有つて居りませぬ。結局敵の飛行機に對しまして戦闘機といふものは後から射つ、これが一番命中るといふ風になつて居りますので、機上戦闘は大

八
體みな宙返りして後へ行つて前の敵を追掛ける。ところが只今の下駄履き飛行機が二臺の敵の戦闘機に兩方から尾行された。どうしてもいくら振つても振り切れない。振ると申しますのは、尻を振ると敵機がまた振り離されて参りますから、振つて見るのでありますが、それが二機に兩方から尾行られてゐるのでいくら振つても振り切れない。それでも操縦者は全然観念して居つたのでありますが、その中にもう一臺敵の飛行機が真直ぐに前からやつて來た、三方から包圍された形になつたのであります。この時の操縦者は下士官であります、すつかり度胸を決めて、もう仕方がないから今度は敵の飛行機に打突けてやらう、打突けて一緒に墜落てやらう、斯ういふ心算でグン／＼進んだのであります。ところがあとで話を聞きますと、打突かる心算で行つたけれども、自分も一緒に墜落たのはつまらぬといふので、途中で氣持を變へて、自分は墜落しないで敵機だけ撃墜してやらうと考へた。そこで大きなフロートを敵機のプロペラーに打突けた、敵機はプロペラーに打突けられて真直ぐに墜落しました。ところがこの光景を見たあと二臺の飛行機はすつかりこれに度膽を抜かれまして、何もしないでドン／＼逃げ歸つてしまいました。敵機は墜落する、此方のフロートは全部切り離されるといふ譯で、飛行機自体はすつかり操縦性を無くしましたが、その操縦者が非常な沈着な男でありまして、河の上へ著水をした。それを驅逐艦が行つて助けたのであります。

そこでこの體當りといふのにヒントを得まして、海軍の外連中がこれはもう空中戦闘は體當りに限ると言つてやり出したのであります。各自の飛行機が體當りをやつて皆んな墜落たのでは仕方がございませぬが、兎に角日本の戦闘機が體當りといふことを考へ附いたのであります。

ちよつと御紹介申上げますが、渡洋空襲部隊に使ひます大きな重爆撃機、これは我が海軍の國産であります、飛行機そのものゝ性能も、決して支那の持つてゐる世界一流のマルチンあたりに較べて、さう遜色はないのであります。

ところが只今申しました戦闘機は、これは九六式戦闘機と申して居りますが、これはもつと自信のある立派な飛行機であります。支那のカーチスホークに決して劣らない。御存じの例の朝日新聞の神風、あれよりももつと性能が良いので、私どもは超神風と言つて居ります。この立派な飛行機に乗つて居ります連中が、何だか私の口から言ふのは變であります、非常に自信たつぷりの連中でありまして、源田とか野村、南郷といふやうな連中が、各自の部下を持つて居ります。源田サーカス、野村サーカスとかいふやうに一つの組を持つて居ります。この組が海軍の面白い教育だと思ひますが、一種の天才教育をやつて居ります、どん／＼自分の特長を伸ばします。このサーカスといふものは實に團結が堅くて、そのお互の關係といふものは、兄弟よりも、親分子分よりももつと進んだ間柄で實に親密であります。呼吸がびつたり合ひます。この連中が皆んなサーカスで行きますので、とても支那は敵はないのであります、

八月末でありましたが、四臺の超神風が支那の二十八臺のカーチスホークと空中戦闘をやりました。さうして忽ち十五分ばかりの間に十臺を射ち落した。その翌日は同じく他の四臺の戦闘機が支那の十八臺の戦闘機と空中戦をやつて八臺撃墜して居ります。その後は支那の戦闘機は日本の戦闘機を見るとグン／＼逃げるばかりで、殆んど戦を挑むものはないやうになつたのであります、不思議にも十月六日になりますと、日本の四臺の戦闘機に對して、十二臺の戦闘機が南京上空で初めて立向つて來た。考へて見ると、外の所では逃げ廻れますが、南京の上空でありますから蒋介石の目の前で逃げる譯にはゆかぬから、立ち向つたのではないかと思ひますが、この連中が撃墜して歸つて來たのが九臺であります、『今日は蒋介石の目の前で彼等が最も頼みとする一番優秀な奴を叩き落して、洵に胸がすつとした』と皆んなで言つてたさうであります。一遍南京の空で大いにやりたいといふ希望を満たしたので、非常に皆ん

な欣んで居つたそうであります。斯ういふ風に空中戦闘をやると手際よくやつて居りますが、それは先程申しました體當りの秘訣であります。どうするかと申しますと、敵の戦闘機が來ると此方も眞直ぐにグン／＼行く、さうすると結局は打突らなければならぬ譯ですが、だんだん間近くなつて來ると、敵は矢張り度胸といふものが日本軍に比べて足りないので愈々衝突といふ前に逃げる、逃げる時後を向きますからそこを狙つて射つ、さうすると必ず墜落する皆んなその調子でやつて居りますから、百發百中だと云ふ事でありませぬ。現在のところ支那の戦闘機には相當損害を與へましたが、未だ會て日本の戦闘機が空中戦闘に於て撃墜されたことはないであります。非常に皆んな自信を持つて居ります。洵に頼もしい現狀であります。

五 空中 肉弾 爆撃

それからもう一つ今度の空中戦に於て私の非常に感激しましたのは、肉弾爆撃といふことであります。これは陸軍でも最近度々やつて居られるのですが、何も好んでやるのではないのであります。偶然さういふ風になりますので海軍機も七臺の肉弾爆撃をやつて居ります。それはどういふ譯かと申しますと、大きな重爆撃機は小刻みな運動ができませんので、眞直ぐに走りながら爆弾を落します。ところが航空母艦あたりに乗つて居ります軽爆撃機になりますと、少々運動が輕快でありますから、目標の上空へ行くところへ眞直ぐに降りて來て爆弾を落します。落したら直ぐに體を離へして飛び去るのでありますから、命中率は非常に好い。ところが斯ういふ風に眞直ぐに降りて參りますと、これに對して敵の射撃も非常にやりますので、此方の損害もなか／＼あるのであります。今までの間に七臺もそれでやられて居ります。急降下の途中で射たれて火を吐いて眞直ぐに落下する、その落ちる序に自分の爆弾で敵方を爆

破させる、これが肉弾爆撃であります。已むを得ずやるのであります。外國の飛行機だつたらこんな場合には敵地でも不時着をして捕虜になるといふ手もありますが日本軍ではそれは絶対にやらぬ。ところが斯ういつた爆撃は何方かと申しますと、何がしか捨鉢なところがあります。仕方がないからやるんだといふところがあります。ところが私の感じました海軍の飛行機で二臺だけはさうではない。洵に日本人らしいやり方をやつてゐるのであります。その中の一臺の南野機は蘇州の飛行場の爆撃に參りました。飛行場の一方には敵機が三臺置いてある、そのちよつと先にガソリンが澤山積んであつた。この南野中尉が二臺の飛行機を連れて居りましたので、自分はこれから第一彈で敵の飛行機を爆撃する、第二彈でガソリンを爆撃すると信號してさうしてその上空に來て急降下を始めました。ところが不幸にして弾が命中つて火を吹き出しました。もう不可ぬ、ところが後から見ると、南野中尉は豫定通りに地上の敵の飛行機に向つて第一彈を落し、それから自分の身もろ共、彼のガソリンの積んである所に墜落して、ガソリンを全部爆發させた。本當に死の直前まで豫定通りに沈著にやつた。斯ういふ肉弾爆撃は日本人でなければできないところであると思ひます。

斯ういつた種類のことは澤山ありますが、今日は割愛致します。たゞ私が先程ちよつと申上げましたが、渡洋空襲部隊の隊内に暫く起臥して居りました間に見聞しました二、三を、これまたいはゆる精神方面の御參考までに御紹介申上げます。何しろ渡洋空襲部隊の根據地といふものは、非常に邊鄙な所にありますので、その生活は實に苦しいのであります。然るに八月十五日以來連日連夜殆んど休みなしにやつて居ります。南と北の部隊を合計致しますと、既に百十數回の渡洋空襲をやつて居ります。南京の如きは既に三十數回も攻撃をやつて居ります。廣東も二十何回攻撃して居ります。然もその都度いちはん短かい航程で約三千キロ、長い時は殆んど四千數百キロの大遠征であります。

さうして海上を渡つて遠征に参りますと、盛んに支那の戦闘機に襲はれまして、猛烈な空中戦闘をやります。さうして十数時間の空中に於ける行動を終へて歸つて来る。殆んど毎日々々それを繰返す。一遍や二遍の英雄的の行動ならばさう珍しいとは思ひませぬが、毎日々々やるといふところに、實に根氣が宜いと言ふか、彼等の人間離れしたやうな氣持が窺はれるのであります。

六 南京空爆の印象

私はその隊内で、いろ／＼な話を聞いたのでありますが、彼等のいちばん苦しかった爆撃の話を見て見たのであります。ところがこの部隊でいちばん印象に残つてゐる爆撃は第一回の南京爆撃、つまり八月十四日の上海に於ける敵の爆撃の翌日で、非常な意氣込みで南京の爆撃に行つて来た時のことであります。その時の指揮官の話であります。非常な時化であつた、七百二十三ミリの低氣壓を突破して上海に出る。海上に出ますと眞黒い雲が渦を巻いてゐる。どうしても前方が見えないからグン／＼下の方に降りて行く、七十メートルの高度で進んで居つたところが、海上の波は山のやうに渦巻いてゐる。その山のやうな波の頭が自分の飛行機に打突かりやしないかと思ふくらゐであつた。それに視界が狭いので、後を見ますと、自分の外の飛行機はボーツとしか見えない。ところが流石は平常の猛訓練で、皆んな列を崩さないで綺麗に附いて来て居つた。最初蘇州の横の太湖の上空に出る心算であつたのであります。この密雲の中でも流石に彼等はちやんとびつたり太湖の上空へ出て来て居ります。雲の切れ間からピカ／＼した水を見ると、今までの黄色い支那海の水と異つて非常に綺麗である。湖水の水面であるといふことが判る。それから揚子江へ出まして、更に揚子江を上つて南京に向ひ、南京には中山路といふ眞直ぐな道路がありますので、その上

空を通つて、南京飛行場の上空に参りましたが、依然として非常に雲が密である、判然分らない。これはあとでも申上げますが、日本の航空隊は必ず命ぜられた所に爆撃をするので、決してあやふやな爆撃をやつてゐない。住民の區域とか、外國の官衙とかいふところには、地圖の上に眞赤に標をつけて置いて、爆弾を落すやうなことは決してしないやうに非常に苦勞して居ります。随つて雲が有つて見えない時には非常に低空まで下ります。地上から三百メートルといふやうなところまで降つてゐます。ですから下からドン／＼射られる。ひどい飛行機は六十數發の戦痕を残して居ります。然し乍ら南京の方ではまさか斯んな荒天に日本の斯んな大きな飛行機が、海を渡つて来るとは豫期してゐなかつたらしく、その射撃は亂射亂撃で、殆んど日本の飛行機の致命部には命中つて居らない。遠慮なく低く降下して、確實な爆撃をやつた。さうしてもう一遍引返して爆撃の跡を能く見て、念入りに寫眞まで撮つて来てゐる。其の内、敵の方の準備ができたときとみえまして、この空襲部隊が蘇州の近くまで歸つて参りますと、後から二十數臺の敵の戦闘機が群をなして追つかけて来たのであります。敵の戦闘機といふものは日本の方の戦闘機に對しては非常に恐れをなしてゐますけれど、日本の大きな重爆撃機に對しては、洵に支那は勇敢にやつて来ます。グン／＼追つかけて來ます。そこで猛烈な空中戦闘をやりまして、支那の十一臺の戦闘機を射ち落したのであります。味方は殘念ながら四臺落ちて居ります。一臺三十萬圓もするやうな飛行機が火になつて四臺墜落したのであります。この時に行つた連中が皆んな言つて居りましたが、自分達は生れて初めてあんな時化した日に飛んだ。それから生れて初めての爆撃をやつて、然も痛快な爆撃で何とも言へなく氣持が好かつた。同時に自分達が今まで一緒に兄弟のやうにして居つた戦友が火を吐いて墜落した。この三つのことがどうしても忘れられない。南京の第一回の爆撃は一生涯忘れられない。斯ういふことを言つて居りましたが、全くだと思ひます。

それから私が飛行隊に参りまして二日目の晩でございましたが、彼等が夜間攻撃に出ます光景を熟つと見て居りました。それを御紹介申上げたいと思ひます。恰度月の全くない眞の闇の晩でありまして、十二時半に攻撃部隊は整列をするといふ命令が豫め出て居りました。夕方になりますと、皆攻撃部隊は自分の寢床に這入つて寝てゐる。私は士官室で雑談して居りましたが、士官室の横の机の上で、その航空隊の司令と今夜出て参ります攻撃部隊の指揮官が地圖を案じて何か計畫してゐる。私はその妨害にならないやうにと思つて傍で見て居りますと、『何處の湖の上空に行く、それからどういふ風に行かう』『いや其方よりも此方が宜いでせう』『いやあれが宜い』といふやうな話で、何だか傍で聞いてゐると、ピクニツクの計畫でもしてゐるやうにしか思へない。これがこの大空襲の計畫であるかと思つて、非常に意外に感じたのであります。臆がて定刻の夜中の十二時半になりますと、鼻を摘まれても分らないやうな、眞暗い闇夜の飛行場の端の方に、攻撃部隊が整列したのであります。各飛行隊ごとに一番機、二番機、三番機と並んで居りましたが、さうすると攻撃部隊の指揮官が自分の部下が揃ひましたので、『宜しい』と云うて報告する。司令は顔は眞闇で分りませんでした。聲だけは凛とした聲で『只今より蚌埠——津浦線の徐州と南京の間に在る——の夜間爆撃を執行する』斯ういつた簡単な命令を與へました。指揮官はそれを聞いて、今度は後へ向いて部下に對して『只今より蚌埠の夜間爆撃を執行する。その進入路は何處々々の湖の上空を通過つてどういふ風に行く』といふやうな簡単なもので、二分か三分で説明は終つたのです。私はあんなことで解るだらうか、斯んな眞暗闇の中で道筋なにか兵隊に解るだらうかと思つて、あとで聞きますと、この連中はもう支那のこの邊の地圖は皆んな頭に這入つてゐる。どんなに眞暗でも、支那には揚子江やいろ／＼な河や湖が澤山在る。幾ら眞暗でも湖や河は能く光つて見えるから何等差支ない。南京の如きは非常に燈火管制が旨くできて居つて、二十哩くらゐ傍へ行くとパツと眞暗に電氣が消えてしまふ。これは電源を切るらしいので完全なる眞暗になる。ところが幾ら眞暗にしたところで、南京の街には傍に揚子江があるから分ると皆んな言つて居りました。さういふ譯で極く簡単な説明で皆んな了解したらしいのであります。その説明が終ると、指揮官は司令の方に向つて再び『宜しい』といふ報告を致しましたら、司令は『かゝれ』、斯ういふ命令を出した。さうして皆んな飛行機に乗つたのです。飛行機は豫め整備員といふ者が準備致しまして、ちやんと乗れるやうにして、機械なんかの手入れもやつてあります。この攻撃部隊が飛行機に乗りますと、順序に全速回転で空へ舞上つたのであります。眞暗い空に星明りで見ますと、大きな飛行機がグル／＼廻つてゐる。次から次と上りましたのが、すつかり列を組んで綺麗な編隊で西の方に揃つて出て参りました。暫くして爆音も無くなつた。司令は『歸らう』と云うて私と一緒に部屋に這入つたのであります。私はそこで非常な意外な光景に打たれました。實は斯ういふ大夜襲をやる、然もその前々日の如きは、六臺の飛行機が行つて、三臺しか歸つて來ないやうな悲惨な戰鬥をやつてゐるのに、そのあとで行く連中は決して意氣銷沈もして居らないし、悠々として、要するに冷静水の如くであります。あとで聞いて見ますと、非常な勇戦奮闘をやつて居りますから、兎に角心の中には燃ゆるが如き闘志を持つてゐると思ひますけれども、見たところは實に冷靜沈著なものでございます。實に立派な軍人だと思つたのであります。そこで私は考へた。この軍隊はこれは日本の民族と違ふやうな氣がする、何しろ日本の民族と申しますとどうかするとパツと線香花火のやうに喜ぶかと思ふと、突然意氣銷沈する。さういふ民族かと思つて居りましたが、だん／＼考へて見ましたら、矢張り訓練をするとあゝいふ風になる。吾々の民族の眞實の姿がこれだと思つたのであ

る。どんなに眞暗でも、支那には揚子江やいろ／＼な河や湖が澤山在る。幾ら眞暗でも湖や河は能く光つて見えるから何等差支ない。南京の如きは非常に燈火管制が旨くできて居つて、二十哩くらゐ傍へ行くとパツと眞暗に電氣が消えてしまふ。これは電源を切るらしいので完全なる眞暗になる。ところが幾ら眞暗にしたところで、南京の街には傍に揚子江があるから分ると皆んな言つて居りました。さういふ譯で極く簡単な説明で皆んな了解したらしいのであります。その説明が終ると、指揮官は司令の方に向つて再び『宜しい』といふ報告を致しましたら、司令は『かゝれ』、斯ういふ命令を出した。さうして皆んな飛行機に乗つたのです。飛行機は豫め整備員といふ者が準備致しまして、ちやんと乗れるやうにして、機械なんかの手入れもやつてあります。この攻撃部隊が飛行機に乗りますと、順序に全速回転で空へ舞上つたのであります。眞暗い空に星明りで見ますと、大きな飛行機がグル／＼廻つてゐる。次から次と上りましたのが、すつかり列を組んで綺麗な編隊で西の方に揃つて出て参りました。暫くして爆音も無くなつた。司令は『歸らう』と云うて私と一緒に部屋に這入つたのであります。私はそこで非常な意外な光景に打たれました。實は斯ういふ大夜襲をやる、然もその前々日の如きは、六臺の飛行機が行つて、三臺しか歸つて來ないやうな悲惨な戰鬥をやつてゐるのに、そのあとで行く連中は決して意氣銷沈もして居らないし、悠々として、要するに冷静水の如くであります。あとで聞いて見ますと、非常な勇戦奮闘をやつて居りますから、兎に角心の中には燃ゆるが如き闘志を持つてゐると思ひますけれども、見たところは實に冷靜沈著なものでございます。實に立派な軍人だと思つたのであります。そこで私は考へた。この軍隊はこれは日本の民族と違ふやうな氣がする、何しろ日本の民族と申しますとどうかするとパツと線香花火のやうに喜ぶかと思ふと、突然意氣銷沈する。さういふ民族かと思つて居りましたが、だん／＼考へて見ましたら、矢張り訓練をするとあゝいふ風になる。吾々の民族の眞實の姿がこれだと思つたのであ

ります。

八 整備員の勞苦

一六

それともう一つは先程ちよつと申上げましたが、整備員といふものが非常な努力をやつて居ります。これは本當に隠れたる努力をやつてゐるのであります。飛行機が攻撃に行つて歸つて参りますと、毀れてゐるところもある、さういふところを手入れをするとか、いろいろやるのであります。これは實に寢食を忘れてやつて居ります。飛行機が出発する以前には、五時間乃至六時間前からちやんと一生懸命に準備して、さうして攻撃部隊を乗せる。この熱心な努力といふものは到底吾々の想像もできないことでもあります。皆んな眼玉が引込むほど疲れて居ります。話を聞いて見ますと、十数日の間不眠不休でやつてゐるといふことでもあります。尤もその後は十二時以後は寝るやうに命令を出したと言つて居りましたが、兎に角非常な努力を以てさういふ仕事をやつて居ります。彼等は兎に角自分の飛行機が敵の弾で毀されて故障なんか起すのは、これは已むを得ないけれども、吾々の不注意で若しこれが故障をして、大切な任務の達成ができないやうなことがあつたら、腹を切つたつて申譯が立たぬ。斯う言つて居ります。その氣持その至誠といふものが天に通じたとしても申しませうか。既にこの渡洋空襲部隊が八月十四、五日以來百十數回の襲撃をやつて居りますが、未だ曾て飛行機のエンジンが故障したとかいふやうなことがないのであります。これも矢張り努力致しますと、さういふ成績になるのぢやないかといふ氣が致しまして、彼等の黙々として働いてゐるその蔭の働きと、それからその飛行機に乗つて攻撃に出て行く者の本當の満々たる闘志が一緒になつてかういふやうな大きな成績を擧げてゐるのぢやないかと熟々考へました。

尚ほもう一つは、飛行機が澤山編隊で列を組んで出て行きますが、この飛行機に全部將校が乗つてゐる譯ぢやないのであります。三臺か四臺に將校が一人乗つてそれを指揮して参ります。士官の乗つて居ります以外の飛行機には少年航空兵、大體二十二、三歳の者達が飛行機長になつて乗つてゐる。さうして先程申しましたやうに、眞暗い所でも決して亂れないで、ずつと列を組んで参ります。どうかしますと、敵地に行つて非常な烈しい空中戦闘をやりますと、眞暗がりでありますから、これはどうしても隊を解かなければならぬ。一臺々々が各自の運動を必要としますのでどうしても隊を解く。一遍隊を解きますと、今度は一緒になるのが非常に危険であります。眞暗がりの集合は危険でありますから、そのまゝ一臺々々根據地に歸るやうに命令を受けます。さうするとこの子供上りの航空兵が、必ず間違ひなく根據地に、數百哩の海上を渡つて歸つて来て居ります。矢張り訓練といふものは、その仕方に依つては神の如き業に達するものだといふことを、私はしみじみと感じたのであります。私が斯ういふ所から申上げるのは、甚だ口はゞつたいのであります。何しろこれまでに準備するには非常な犠牲者も出しました。さうして毎日々々猛訓練を續けました。勿論飛行機も優秀なものが出来て居りますので、現在では飛行機に關する限りは、彼等は皆んな自信一ぱいであります。眞實に自信に満ちてゐる。言葉を換へましたならば、信心に満ちて居ります。然もその信心が必勝の信念に満ちてゐると私は思ふ。これは日露戦争の時に東郷元帥の教へられました傳統の精神であります。彼等は能くそれを守つて、信心に生きてゐるといふ風に私は考へてゐるのであります。斯ういつた現狀でまだまだこれから相當困難な戦闘があるだらうと思ひますけれども、現狀に於てよしんば支那に第三國から非常に優秀な飛行機が参りましたも、私どもは決してこれに對して危惧の念を懷くやうなことはないのであります。益々相當の成績を擧げ得るものと確信致して居ります。

一七

九 平時封鎖と各種制限

尙ほ海軍でやつて居りますその外の仕事としては、先程ちよつと申しました平時封鎖でございますが、この任務は支那の船舶の交通を、殆んど絶対に遮断致しまして、現状に於ては支那に對する物資の供給に非常な打撃を與へてゐるやうでございますが、實はこれに従事致して居ります連中は、これは誠に氣の毒な次第でありまして、二千八百哩にも亘つて居ります海上でありますから、斯ういふやうな海面を封鎖するのは、どうしても大きな軍艦を使ひますと、燃料その他を澤山費消しますので、小さな驅逐艦或は水雷艇、掃海艇等がこの方面の任務に服して居ります。小さい艦でありますし、然も近頃非常に季節風がひどくなりましたので、皆んな頭からびしょ濡れで軍服を着替へる餘暇もない。また着替へも持つて居りませぬ。禪まで濡れるやうな状態であります。敵と本當に戦をするのぢやない。然もどうかすると第三國の船なんかに打突かれますと、怪しい船だと思つて居つても、これを捕獲したり或は攻撃したりすることができないので、非常に氣の毒なことで、恐らく皆んな若い連中でありまして、切齒扼腕してゐるだらうと思ひます。この任務は洵にさういふ苦勞が伴ひますが、一面に於て支那の一般民衆に非常な打撃を與へてゐること、思ひますので、これは是非共益々努めてやらなければならぬこと、考へて居ります。

尙ほ支那の南方の各地に對して、殊に抗日排日の中心であります、廣東、汕頭、厦門の如きは徹底的な打撃を加へつゝありますが、今日は時間もありませぬので割愛致しまして、全體として私どもはもう斯うなりました以上は、最初は忍び得ないところを忍んで、事件を擴大しないといふ方針で來たのでありますけれども、現在になつてはもう積極的に支那の痛い所を突かなければならぬといふ氣持で一ぱいあります。またその心算で海軍の行動も採られてゐるものと思ひますが、取敢ずの問題と致しまして、何とかして支那の主權を持つて居ります南京政府、これを南京から追ひ出すといふことが當面の問題ぢやないか、南京から追ひ出しまして、一つの地方軍閥に追ひ落とす。そのために現在のところ随分苦勞致しまして、南京爆撃、或はこの方面に對して物資が來ないやうに、鐵道の遮断といふやうなことをやつて居ります。それからもう一つは支那の南京政府と支那の一般民衆が、以前と異なしまして、今度の南京政府から初めてだと思ひますが、非常にくつ附いてゐるから、このくつ附いてゐる鞆帯を切る、さうして南京政府に對する反感を助長しなければならぬ。そのためには、氣の毒であります。一應支那の民衆に對して非常な壓迫を加へる。その壓迫が或は物資の遮断、或は場合に依りましては、民衆に對して非常な恐怖心を與へるかも知れませぬが、いはゆる飛行機の爆撃であります。同時にまた支那の財政的ないろ／＼な基礎であります浙江財閥といふやうなものに對して、いろ／＼な打撃を與へる。さういふ意味でやつて居りますが、何しろ先程申しましたやうに、南京なら南京、廣東なら廣東を爆撃致しますと、命令の中に色々の制限を受けなければなりません。この制限といふものは實際に航空部隊にとりましては、洵に辛いのであります。斯ういふ制限がなかつたら、どのくらゐ有効にどんでん爆撃ができるか分らないといふことを言つて居ります。そのために態々判然するために低空に降下して行つて、自分の損害を顧みないでどんでん／＼低空爆撃をする、敵方の射撃を受けなければならぬ。或る時の如きは四千數百キロもあるところの漢口の往復をしまして、さうして爆弾を澤山持つて行つて爆撃をやらうとしたら、濃霧が非常に低く垂れて居りまして、此方の狙つてゐるところの軍需工場とか兵器廠とかと、一般の住民區域の區別がつかない。でありますから、態々持つて行つたに拘らず爆弾を一發も落さないで持つて歸つたといふやうなことがあります。さういふことを考へますと、吾々は、殊に海軍の方の航空部隊の襲撃は、吾々の日本の武士道のために、非常に縛られて自由な

一九

行動ができないのである。それにも拘らず外國などに於て、まるで反對の宣傳をするといふことになりますると、もうこれは、私は斯ういふ場所で申上げることが甚だ失禮と思ひますけれども、もう我慢にも程度があるのぢやないかといふやうな氣がするのであります。のみならず現在のところ第三國の物資が、殊に軍需品或は飛行機などが、もう判然と香港あたりから這入つて居りますが、これに對して指一本も差せないといふことは、吾々海軍の出先の者にとつては物足りないといひますか、やり切れないやうな氣がするのであります。然し乍ら目下作戰もだん／＼進んで居りますので、何れ吾々の期待するやうな事態が生れると思ひますが、早く上海方面の非常な困難な戦局を克服致しまして、あの方面が全部日本の軍隊に依つて抑へられますならば、幾らイギリスと雖も上海の總てを日本にリードされるのは嫌でありませうから、進んで日本に握手してくるといふやうなことがないとも言へないのであります。別にイギリスあたりを吾々が齒牙に掛ける必要はないと思ひますけれども、成べくならば彼等が自ら自覺して握手を求めらるやうなことになるれば結構なことだと思ひます。

一〇 結

び

尙ほ私どもは現狀に於きまして、ロシア、イギリス、アメリカあたりの態度が甚だ面白くない、不愉快な模様を見て居りますけれども、現狀に於てロシアが積極的にこの事變に依つて、日本に戦を仕向けるといふことも先づないものと考へます。又イギリス、アメリカあたりにしても、現狀に於てとても彼等の現在の實力では東洋方面に於て日本に對して積極的に事を構へるといふことはできませんので、これまた彼等が實力を以て今度の事變に就いて干渉することはないものと考へますので、是非どん／＼日本の所信に向つて進まなければならぬと思ひます。

たゞ然し非常に事件が長引きまして、日本の國內に於てい／＼の問題が出て参りますと、各國の態度といふものも必ずしも現狀の通りでないかも知れませぬので、是非ともこの事件といふものは早く片附けるやうに、今度のこの運動の如く國民全體が一致團結致しまして、うんと支那に壓力を加へて、一日も早く戦果を結ぶやうにしなければならぬと思ふのであります。この意味に於てどうぞ皆様の御盡力に依りまして、銃後の力が益々結束致しまするやうにさうして私ども軍人に對して、後から大いに鞭撻して戴きますやうに、私は別に精神的方面のことを皆様に申上げるやうな、資料も持たなければそんな資格もありませんが、たゞ海軍の現狀を報告申上げまして、御参考に供した次第であります。(昭和十二年十月十二日日比谷公會堂に於ける講演)

支那事變と我が海軍

(了)

昭和十二年十月廿五日印刷
昭和十二年十月廿九日發行

支那事變と我が海軍

著作者 梅崎卯之助

東京市麴町區內幸町二ノ一
舊貴族院內

發行者 瀨尾芳夫

東京市神田區旅籠町二ノ一二
印刷者 青田伊祐

東京市麴町區內幸町二ノ一(舊貴族院內)

發行所

國民精神總動員中央聯盟

電話銀座座(57)

六、二四九番
六、七七二番
六、七七三番



75
3

